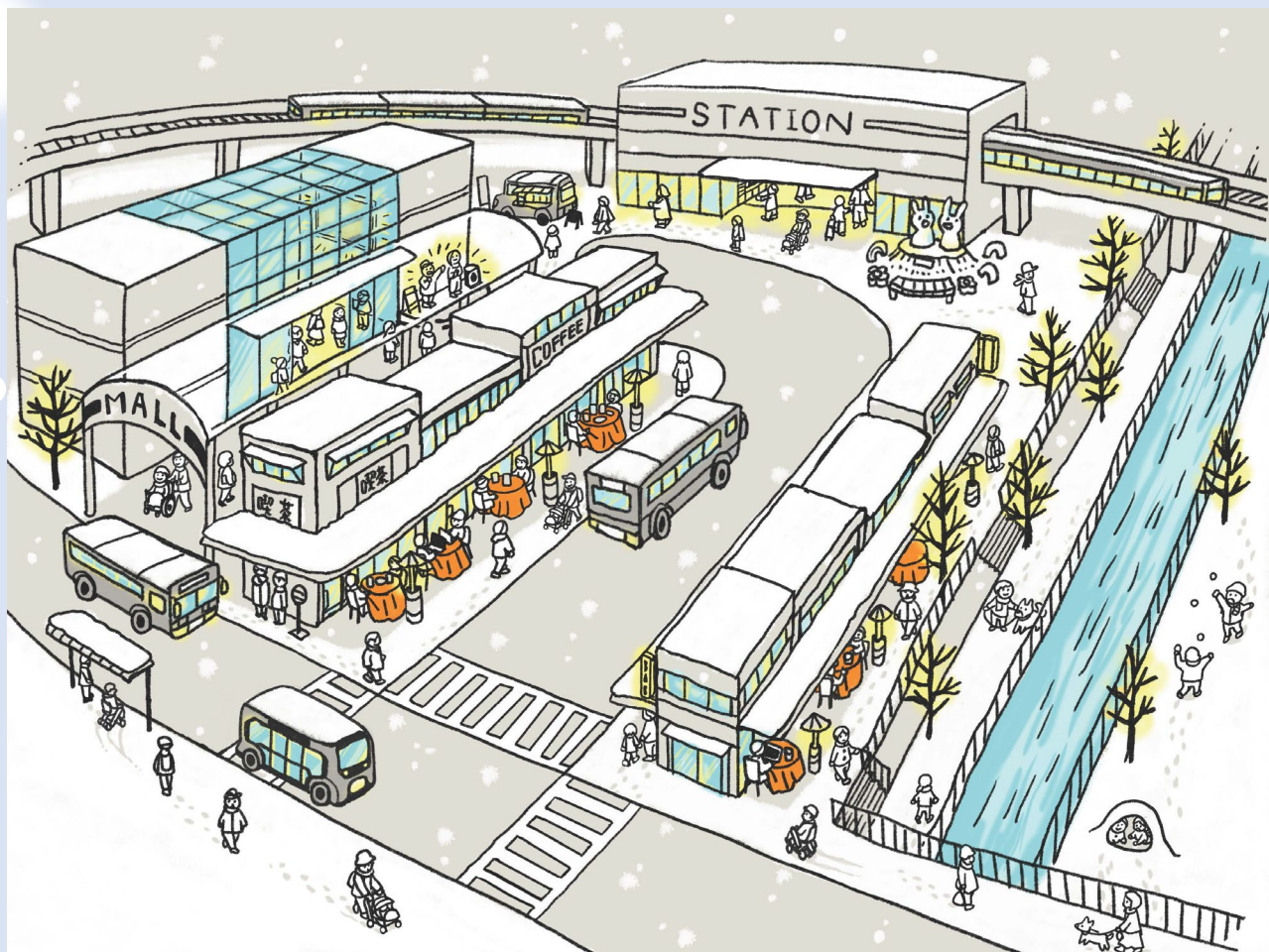




# 「ウォーカブルなまちなか」アイデア集

## ～雪の降る地域における先行的取組み～



雪国における「居心地が良く歩きたくなるまちなか」イメージ

国土交通省は、ウォーカブルなまちなかづくりを推進しています。そこで、私たちは北陸をはじめとした雪国固有の地域特性による「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくりの困難性などについて議論を交わしてみることにしました。上の絵は、冬のまちなかで雪が降る中にも生まれる「居心地が良く歩きたくなるまちなか」のイメージです。

このアイデア集は、これからウォーカブルなまちなかづくりを考えようとする方にお伝えしたいアイデアを集めたもので、内容も規模も様々です。ぜひ、あなたのまちの魅力創出にご活用ください。





# ウォーカブル空間形成の取組み事例

各地での取組の参考に、雪国で先行してウォーカブル空間形成に取り組む6都市をご紹介します。

## アートを活用した、歩きたくなるまちなかづくり



社会実験として実施された、美術館前のマルシェ

青森県弘前市 文化交流エリア周辺地域

弘前市の中心市街地では、歴史的な価値を有する煉瓦倉庫がPFI事業により「弘前れんが倉庫美術館」としてリニューアルしたことをきっかけに、アートを活用したウォーカブルなまちづくりが開始されました。

取組の中心的な主体である「中土手町まちづくり推進会議」は、美術館や中土手町商店街などを含むスモールエリアを活動拠点とする、官民で構成されるエリアプラットフォームであり、社会実験等を通じた経営手法の模索や波及効果の検証によるエリア価値の向上を図っています。

### 民まちアートプロジェクト（2020年2月）

公共的空間でのアートをテーマとした社会実験で、まちなかでのプロジェクションマッピングやエリアの各施設前へのイステープル設置による回遊性・滞留性の向上を図る事業が取り組まれ、加えて、積雪時のエリアの歩行回遊動線を確保する「雪かき」に係る経費を確保する方法を検証するための事業も実施されました。



プロジェクションマッピング



除雪エリアマネジメント



駅前道路用地の暫定活用



河川遊歩道にテラス設置

## まちなか回遊性向上に向けた道路空間活用



社会実験では車道も活用（すずらん商店街）

山形県山形市 すずらん商店街地区・国道112号七日町大通り地区

山形市では2020年3月にウォーカブル推進都市に応募し、歩行者の安全性や回遊性を向上させると共に滞在者の滞在時間を延長させ、まちなかの賑わいづくりに向けたプロジェクト「中心市街地歩行者空間創出等事業」を開始しました。

2021年度はスタートとなるプロジェクトとして、七日町大通り、すずらん商店街という2つの道路空間を会場として活用する社会実験「やまがたRe-v-ing（リビング）」が実施されました。

### 国道112号七日町大通り社会実験(2021年9月)

沿道にある山形市の敷地「ほっとなる広場」や店舗前などにテーブル等が設置されました。さらに、交通規制を実施し、片側の車道及び自転車道に人工芝やベンチ・テーブル等を配置し、歩道と一体的な広場空間を創出しました。



道路に設置されたテーブル・イス等



広場の活用

### すずらん商店街社会実験（2021年8月～）

歩道の一部をテラス化し、イス・テーブルが設置されました（2022年3月末まで実施予定）。また、週末金曜・土曜の夜間には車両通行止めを実施し、イス・テーブルを設置することで、道路のテラス化が実現されました。



店舗前にテラス席を設置



夜間には車両通行止め



# 旧新潟駅前通 人中心のウォークラブルな空間づくり

新潟県新潟市  
新潟駅・  
万代地区周辺エリア



社会実験では、道路空間が家族団らんの場へ

新潟市の都心エリア「にいがた2km」では、開港150周年を契機に策定された「新潟都心の都市デザイン」（2018年）に基づき、人中心のまちづくりが進められており、道路や公園、河川など、エリア内の公共空間の活用が公民連携で進められています。

そのうち、新潟駅と、大型商業施設のある“万代地区”を結ぶ中間地点に位置する旧新潟駅前通では、かつての旧新潟駅へのアクセス道路を、多様な活動が創出される人中心の空間に転換する取組が進められています。



普段の旧新潟駅前通

## 新潟駅・万代地区をつなぐ公共空間利活用社会実験（2019年11月）

旧新潟駅前通沿線の市営仮設駐輪場において、人工芝とウッドデッキ、その上にテーブル・ベンチを置くなど、誰もが使える憩いの場を創出する社会実験を実施しました。社会実験にあわせて、テーブル・ベンチを地元学生とワークショップで製作したほか、キッチンカーの出店や、まち歩きイベントなどを実施し、エリアの魅力や可能性を広く認知してもらう取り組みを実施しました。アンケート調査では、通行者の多くから「安心して通行・滞在できた」「取組を続けてほしい」と好意的な反応が得られ、滞在者の活動調査により、「座る」「会話」「飲食」など多様な過ごし方が確認されました。



市営駐輪場（実験前）と特設テラス（実験中）



学生との製作ワークショップ

## 旧新潟駅前通公共空間利活用社会実験「流作場Street Park」（2021年10月）

地元勉強会を開催しながら、社会実験の検討を進め、旧新潟駅前通りの一部区間を車両通行止めにし、車道上にテーブルやベンチ、人工芝や植栽等を設置することで、公園のような緑豊かで居心地が良く滞在できる空間を創出しました。また、周辺店舗と連携しながら、テイクアウト企画や、音楽演奏会などにより、沿道と一体になった空間が創出されました。

会場では、通行者が足を止め、公園のように読書や飲食を楽しむなど、思い思いに過ごす姿が見られ、今後のまちなかの居場所や交流の場としての新たな可能性を見出すことができました。



車道から居心地よい空間へ



多様な過ごし方が見られた





## 道路空間再編の効果を 最大化するウォーカブル



2020年「国8空活」の様子（気比神宮前交差点）

福井県敦賀市 国道8号（元町交差点～白銀交差点）地区

敦賀市の中心部を通る国道8号では、郊外でのバイパス開通により交通需要に変化が生じたことを受け、車線数の減少と歩道空間の拡大等の再整備が行われました。これにより、歩道の拡幅や、交差点のコンパクト化等を実現しています。

この再整備により創出された歩行空間を積極的に活用することで、北陸新幹線敦賀開業の受け皿づくりや楽しいまちなかを作るための取組みが進められています。

### 公共空間の利活用社会実験「国8空活」（2020年11月）

2020年10月に再整備完了後、同年11月1日には、空間の利活用策を提案し、機運を高めるためのモデルケースとして、市主催による実証実験イベント「国8空活」が実施され、キッチンカーや露店の出店、音楽イベントが行われました。（来場者数：約6,800人）

この「国8空活」以降も、引き続き地元商店街や民間団体と連携しながら、市が占用主体となって、毎月第2土曜日を中心に実証実験が行われています。

また、「国8空活2021」が2021年11月3日～24日の期間にわたって実施され、「アート」をコンセプトに、芸術家によるアートイベントやアート作品のような椅子の展示などが行われました。

このような取組みと並行し、当該道路の「歩行者利便増進道路（ほこみち）」の指定に向けた利用計画の策定に取り組まれています。



民間団体による出店

## 中心市街地活性化 ×ウォーカブル



コロナ禍で取り組まれた  
「1日限りのおでん屋さん」

新潟県長岡市 長岡市中心市街地地区

長岡市では、まちの玄関口であるJR長岡駅前を中心に、「市民協働によるまちづくり」を柱とした官民連携による様々な取組みが進められています。

あえて市役所機能をまちなかに分散配置した「まちなか型公共サービス」の展開により、人の回遊性を高めて賑わいを生み出し、中心市街地の活性化につなげています。

また、居心地が良く歩きたくなるまちなかの実現に向け、歩道など公共空間を有効活用して、さらなる活性化に取り組んでいます。

### 歩道の有効活用オープンカフェ「まちカフェ」（2016年～）

歩道にテーブル・イスを設置して、来街者が気軽に会話や飲食を楽しむことで、まちの賑わいを創出することを目的に、2016年から官民連携で「まちカフェ」の社会実験が開始されました。3年間の社会実験では、実施日数や参加店舗を徐々に増やし、事業の認知度を高めていきました。

社会実験の成果を踏まえ、2019年には中心市街地活性化基本計画に位置付け、中活法の道路占用の基準緩和を活用した事業として、本格実施されています。

2020年には、「まちカフェ」の制度と公共空間を活用して、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けている飲食店の支援等を目的に、「立ち飲みスポット」の設置や「1日限りのおでん屋さん」の出店など、「まちカフェ」と連携した各種イベントが開催されました。



社会実験中の「まちカフェ」

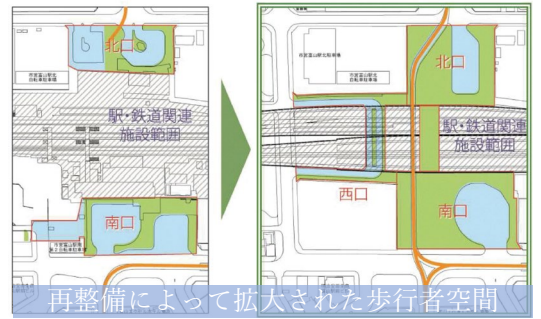


「まちカフェ」との連携イベント



## 官民連携による エリア一体的な賑わいづくり

再整備された富山駅南口



再整備によって拡大された歩行者空間

富山市では、2020年3月に路面電車が富山駅で南北接続されたことを大きな節目として、これまでに進めてきた公共交通ネットワークを活かしたまちづくりの新たなステージとして、「歩きたくなるまちづくり」を推進しています。富山駅周辺整備に伴って創出された公共空間の活用に向けた社会実験や、機運醸成のためのイベント開催などに取り組んでいます。また、2021年11月には、取組を推進するための官民連携の場である「富山駅南北一体的なまちづくりプラットフォーム」も発足しています。

### 公共空間の利活用社会実験

既存イベントとの連携による”よぞら駅道”や、子育て世代やエリア周辺の園児利用を想定した”えきのあそびば”の実施等により、空間のポテンシャル把握を図っています。

#### 「よぞら駅道」(2021年10月)

駅南側で従前から取り組まれていた定期マルシェ「ゆうぞら駅市」と連動し、駅北側で平日夜間に飲食や音楽を楽しむ試みです。ブース出店を通じた事業者PRや沿線事業者からの電力提供など、幅広い事業者の参画を促す工夫がされました。



社会実験“よぞら駅道”

#### 「えきのあそびば」(2021年10月～11月)

駅南側に芝生やベンチ、遊具を設置し、平日昼間の新たな利用ニーズを調査する社会実験です。電車に見えるロケーションから、園児や子連れの方に好評でした。



社会実験“えきのあそびば”

### トークセッション等イベントの開催

社会実験による公共空間の利活用と並行して、エリア内の企業トップと市長によるセッションや、有識者を招いたシンポジウム開催等により、官民双方の機運醸成を図っています。

#### 「駅まちの現在と未来」(2021年10月)

エリアプラットフォームに参画予定(当時時点。同年11月に正式に発足)であった北陸電力(株)の社長や、富山ターミナルビル(株)の社長と富山市長が登壇し、駅周辺の持つ可能性や未来に向けた期待を、富山駅南北自由通路のオープンな空間で語り合いました。



企業トップと市長によるトークセッション

#### 「富山のこれからのまちづくり ディスカッションリレー」(2021年11月)

富山のこれからのまちづくりについて考えるため、富山や全国でまちづくりを実践する方々を招き、全3回で開催されたシンポジウムです。

まちづくりの関心が高い事業者や高校生も参加し、開催の様子はイベントレポートブックとしてまとめられ、市役所に展示されました。



有識者を招いたシンポジウム

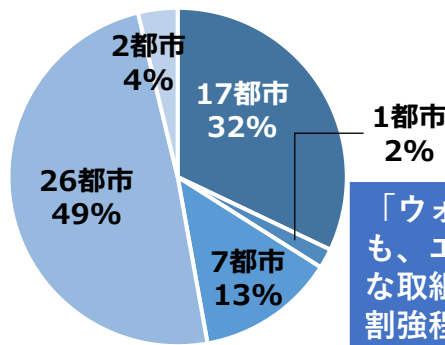
# 雪国におけるウォークアブル空間形成の取組み状況

北陸地方整備局では、北陸地方をはじめとする降雪地域でのウォークアブルの取組状況を把握するためのアンケート調査を実施しました。調査概要は右表のとおりです。  
本パンフレットでは、結果の一部をご紹介します。

|      |                                                           |
|------|-----------------------------------------------------------|
| 調査方法 | Googleフォームおよびワード調査票                                       |
| 調査対象 | ・北海道・東北地方・北陸地方のウォークアブル推進都市<br>・その他、国土交通省が「豪雪地帯」に指定する全国の都市 |
| 調査期間 | 2021年9月22日～10月7日                                          |
| 回答数  | 53 都市                                                     |

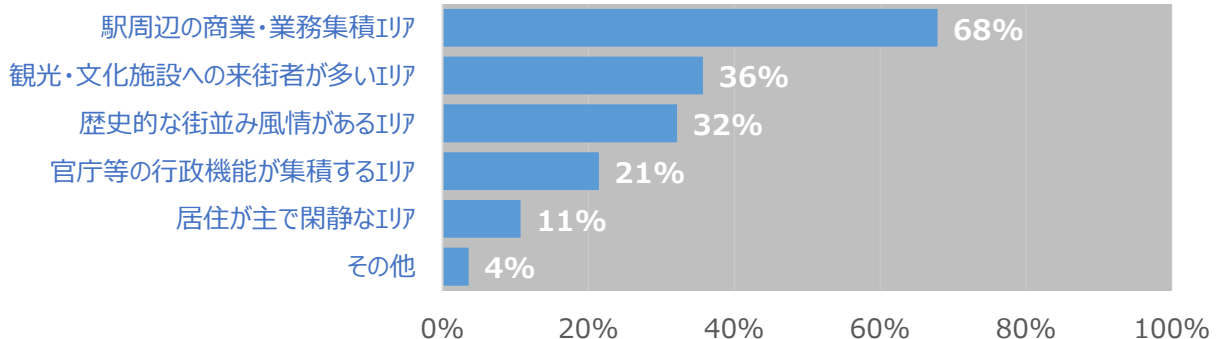
## ■具体的な実施エリアの有無（択一回答、N=53）

- 取り組みを進めているエリアがある
- 3年程度で着手予定のエリアがある
- 中長期的に構想予定のエリアがある
- 今後の構想も含めて未定
- 未回答



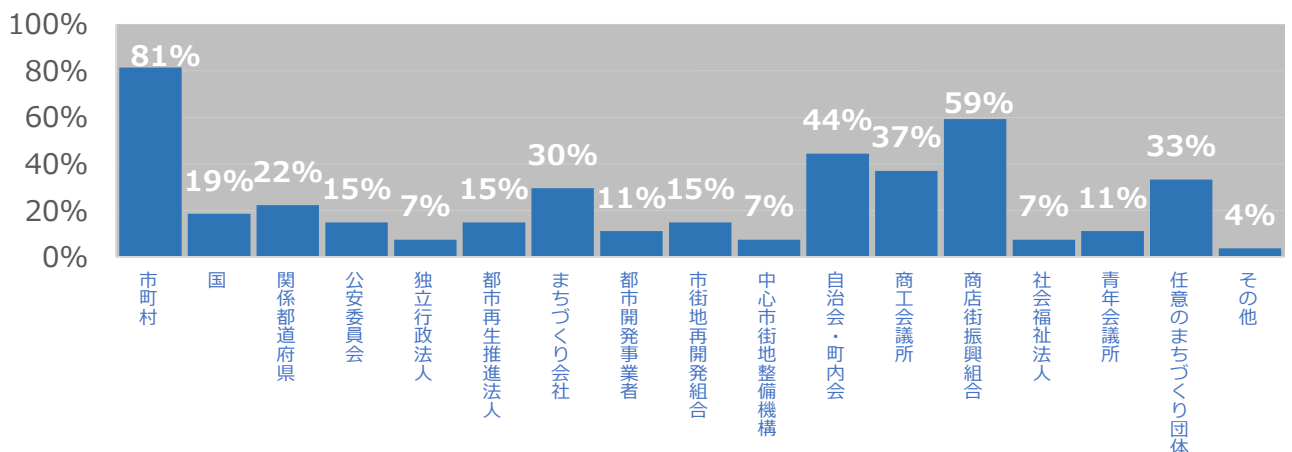
「ウォークアブル推進都市」でも、エリアを設定して具体的な取り組みを進めているのは3割強程度でした。

## ■エリアの特性（複数回答、N=28）



具体的な取り組みを進めるエリアの多くは「駅周辺の商業・業務集積エリア」など、来街者の多いエリアでした。

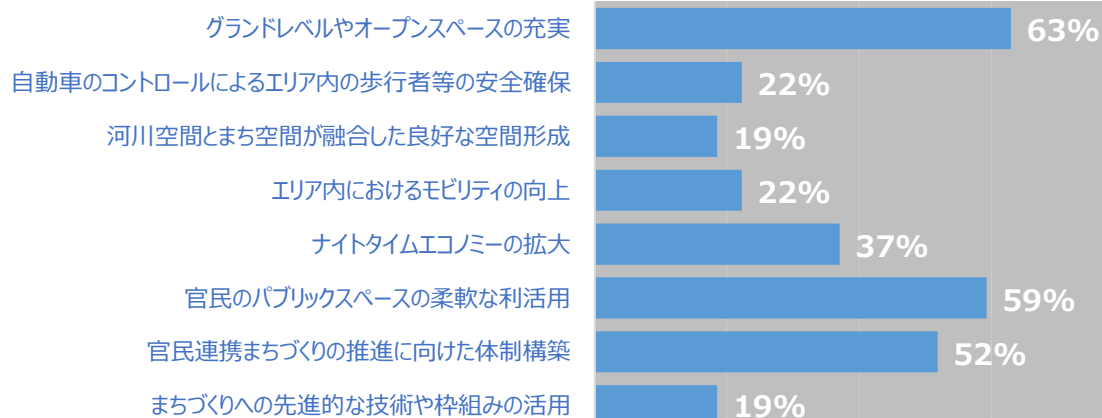
## ■事業参画している組織（複数回答、N=27）



具体的な取り組みを進めるエリアの多くで、事業内容や体制に関する庁内検討が進められているほか、既に各種事業を展開するエリアもありました。

## ■取組目的・内容（複数回答、N=28）

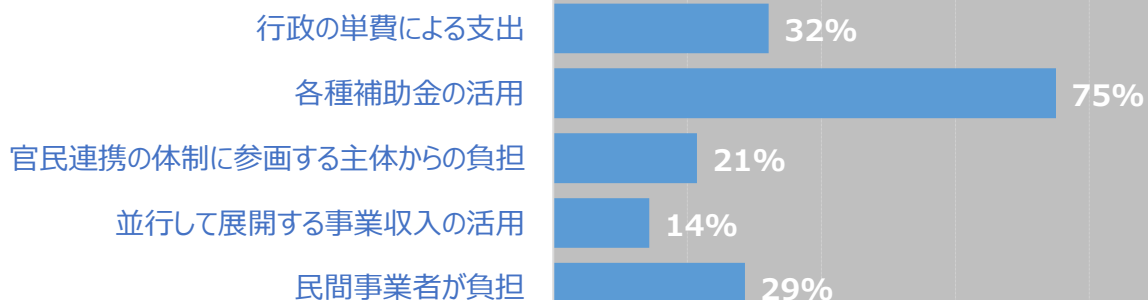
0% 20% 40% 60% 80% 100%



取組み内容として、「グランドレベルやオープンスペースの充実」が多いほか、「官民パブリックスペースの柔軟な利活用」等も多い結果でした。

## ■取組みの主な財源（複数回答、N=27）

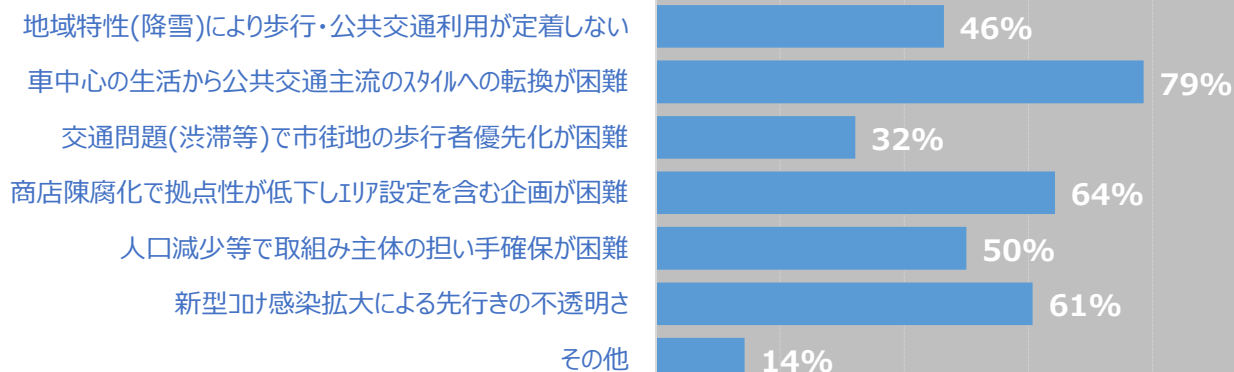
0% 20% 40% 60% 80% 100%



財源としては、公的な補助金を活用するケースが多いほか、民間事業者による負担や、受益者負担のケースも見られました。

## ■主な課題（複数回答、N=27）

0% 20% 40% 60% 80% 100%



課題として、「歩行や公共交通を中心とした移動への転換」が多いほか、「拠点性・中心性の低下」「新型コロナウイルスの感染拡大」なども多く見られました。



# 国土交通省北陸地方整備局の取組み

2022年2月、「北陸ウォーカブルシンポジウム2022」と銘打って、新潟県新潟市、長岡市、富山県富山市におけるウォーカブルの取組を題材に、北陸地方における「居心地が良く歩きたくなるまちなか」について理解を深め、「はじめの一步」につなげるためのイベントを開催しました。

新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、会場とオンラインの同時開催とし、自治体職員のほか、多様なバックグラウンドを持つ方々にご参加いただきました。

ここでは、シンポジウムでの質疑を一部ご紹介します。



## ■ウォーカブルの取組みを進めるにあたってのFAQ（シンポジウムにおける質疑より）

社会実験を実施する際に、人を呼び込むために工夫・苦勞した点はありますか。

- 行ってみたくなるような仕掛けや興味を惹くような取組みを、人通りがないところに仕掛けることが有効だった。
- 空きスペースのような未利用の空間を見つけることが大事。使用する人となし人、どちらの利便性や安全性にも配慮した検討が必要。
- 定期的な取組みを長く続けていくことが大事。

社会実験を企画する際に、どのような方法で調査を実施しましたか。

- 様々な方と対話する中で、「ここを活用したら面白くなるのではないか」など、エリアに携わる方の意見を聞くことが重要。
- 子供向けの社会実験を実施するにあたって、周辺の保育施設にアンケートを実施することで、子供たちの外遊びのニーズを把握した。

ウォーカブルに取り組むにあたり、雪による悪影響へはどのように対応しましたか。

- 地下空間の活用や、ロードヒーティングによる積雪対策を実施した。
- 屋内空間や、アーケードで覆われた空間を使うことが有効だった。
- 屋根のある全天候型の空間を使った。音楽を流すようなことも有効だった。

## 国土交通省都市局の参考資料

国土交通省都市局では、官民連携まちづくりに役立つ様々な資料を用意しています。ここでは、その一部を紹介します。（二次元バーコードからアクセスください）

### 官民連携まちづくりポータルサイト

官民連携まちづくりを進めるうえで役立つ制度など、各種情報を掲載しています。



### 公共空間利活用等のための行政によるワンストップ窓口事例集

公共空間の占用許可や必要な手続きを一括して申請できるようにするなどの好事例を集めたものです。



国土交通省 北陸地方整備局 編

## 「ウォーカブルなまちなか」アイデア集

発 行 者 : 国土交通省 北陸地方整備局  
建政部 都市・住宅整備課  
(TEL: 025-280-8755)

発 行 年 月 : 2022年2月

協 力 : 日本工営株式会社